

石川県剣連だより 剣風春秋

第34号

発行
一般財団法人
石川県剣道連盟
広報委員



第36回全国スポーツ少年団 剣道交流大会優勝を機に

監督 藤井 勝司

平成24年春、石川県少年剣道に大きな転機が訪れました。石川県剣道連盟によるジュニア強化事業の開始です。この強化の目的は大きく三つに分けられます。一つ目は子供たちのレベルアップ、二つ目は県全体への効果の波及、三つ目は指導力の向上。もちろん小学生です。単に試合技術の向上ではなく、基本正しく、中学校・高等学校にもつながるようというものが基本方針です。他の都道府県では既にジュニア強化が実施されています。本県は若干出遅れていたものの、山下会長にも支えていただきながら、強化スタッフが幾度となく協議し、実施内容を検証しつつ進めていきました。現在では、ある程度の仕組みが整い、そ

の活動もさらに拡充されはじめています。

そして、もう一つの大きな転機が平成26年3月の全国スポーツ少年団剣道交流大会の石川県開催です。今後、本県の少年剣道のレベルが高まる契機となるよう、覚悟を持って取り組むこととなりました。石川県剣道部スポーツ少年団を編成、コーチ陣を充実するとともに、指導者が元立つての本打ち、特に、面の打突を軸とした毎週の定期稽古、週末には県内外遠征を繰り返しながら、少しずつ地力を付けていきました。しかし、石川県犬鷲だけがレベルアップしても本来の目的に合致しません。そこで、県全域の教室を対象とした錬成会の回数を増やし、効

果の波及を図るとともに、多くの子供たちとコミュニケーションをとるようスタッフ一同心掛けました。幸い、子供たちは我々の意を酌んでか、驕らず一生懸命稽古に励んでくれました。さらに、県外の道場からも強化錬成のお誘いをいただき、また、県内各地にも出掛け、多くの少年剣士と切磋琢磨し、石川県犬鷲の子供たちはもとより、指導者も沢山学ぶことが出来たと思います。

「一心」。これは県予選で優勝し全国大会に出場することとなった際、岩脇司先生にも相談し、全国大会に向けて自分自身が設定したテーマです。「一意専心」、多くの方々の応援を力にし、自信を持ってその試合に集中する。「一心同体」、石川県犬鷲はもとより、共に汗を流した県内の多くの仲間や支えてくれた方々に感謝し、皆の心を一つにする。本大会では、地元での大きな声援を受け、予選を勝ち上がり、決勝トーナメントへ。子供たちは、勝つごとに、より集中して試合に臨み、精一杯の力を発揮しました。準決勝、決勝では、整列する袴に刻まれた「一心」の文字が脳裏に焼き付いています。そして、子供たちは「優勝」という石川県にとって大きな榮譽を残してくれました。

思えば多くの方々に支えられた

日々でした。石川県犬鷲の保護者の皆様のご理解とサポートは身に余るほどであり、また、県剣道連盟や県内剣道教室の様々な先生方にも多大なるご支援を賜りました。厚くお礼申し上げます。

そして、北井淳之輔、塩野克幸、横井隆明の三先生は「阿吽の呼吸」で優れた指導を、椿由美先生は心を込めたマネジメントを、中剛先生は大きな理解と協力を。本当に最高のスタッフに恵まれ支えられました。感謝の気持ちでいっぱいです。「ありがとう」

少年剣道は、地域指導者の熱意と保護者の温かいサポートによって成り立っています。皆さん、仕事や家庭を持ちながら、自身の教室で指導しつつ、加えて、県全体の強化や大会運営などもしなければなりません。進化した子供たちの成長を見守る必要もあります。後継者の育成も大切です。だからこそ、お互いに理解・協力し、補完し合いながら進めることが肝要と考えています。自分を含め強化スタッフ一同、この全国スポーツ少年団剣道交流大会を通して得たものを県少年剣道全体に還元できるように取り組んでいきますので、今後とも、皆様方のご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

感想文集

【全国スポーツ少年団

剣道交流大会】

先鋒・河邊 朱華

わたしは、初めての全国大会に先鋒として出ました。石川県の代表としてがんばろうと思いつながら試合をしました。

予選では、初めての大会なのでとてもきんちょうをしました。鹿児島との試合では先に面を一本取られました。面二本を取りかえして勝てました。栃木との試合では一本しか取ることが出来なかつたけど、勝ててうれしかったです。

試合で強い相手とやる時は楽しくて、技が決まると、もつと楽しくわくわくしました。

決勝戦では、予選よりとてもきんちょうしました。でも、ぜったいに負けたくないと思いました。初太刀から思い切って小手面を打ったら面が決まり、二本目もうまく引き面が決まってくれしかったです。わたしは、仲間と一緒に

がんばることが出来て本当に良かったと思います。

全国大会初出場で初優勝出来たことは、私にとって大切な思い出で、宝物になりました。

【全国大会を終えて】

次鋒・東 知南

昨年四月からはじまった石川犬鷲剣道部は、私にとって、とても良い思い出になっています。大会までの稽古は辛いこともありましたが、レベルの高い先生方、選手たちとの稽古は自分にとって、強くなれるチャンスだと思えました。それに、だんだんみんなと仲良くなると、おしゃべりもとても楽しくなり、わたしは、稽古日がいつても楽しかったです。

選手発表で、次鋒に選ばれたときはとても驚き、不安とプレッシャーが重くのしかかりました。でもその気持ちに負けられないように、私はそれまで以上に稽古を頑張りました。

三月の全国大会では、一日目は体も動いて、調子も良かったです。でも二日目は、対戦相手も強

く、緊張で思うように体が動きませんでした。決勝戦でも私は負けちゃいました。後の選手が勝ってくれることを信じて応援しました。そして、みんなの頑張りや多くの人たちの応援のおかげで、優勝出来ました。ほんとうによかったし、うれしかったです。石川犬鷲剣道部で、貴重な経験ができてよかったです。わたしは、この経験を生かして、これからももつと強くなりたいと思っています。

最後に、指導していただいた監督、コーチ、支えてくれた両親、応援してくれた県内の剣士たち、保護者の方々、そして一緒に頑張ってきた石川犬鷲剣道部のメンバー、すべての人たちに感謝します。ありがとうございました。

【全国大会に出場して】

中堅・松本 龍樹

僕は、石川県Aの中堅として全国大会に出場させていただきました。全国の舞台を前にして緊張はありましたが、大会の名前に「交流」とあったので、全国の選手た

ちどの試合を一つ一つ楽しんでやろう、と心に決めていました。

予選では、緊張からか、自分でもわかるくらい動きがたく、チームのみんなに迷惑をかけてしまったのではと不安になりました。

でも、二試合とも勝つことができ、チームも決勝トーナメントに進出できたので、内心ほっとしました。

決勝トーナメントでは、自分でも予選より足が動いているのが分かりました。自分が負けてしまった試合もあったけれど、はかまに入れた「一心」の言葉通り、みんなが気持ちを一つにして、決勝まで勝ち上がることができました。

決勝戦。僕は試合をしていて、緊張よりも楽しむ気持ちの方が強かったです。結果は引き分けでしたが、今まで一番楽しい試合だったと思います。大将戦が終わって優勝が決まった瞬間は、全然実感がありませんでした。でも、最後の礼を終えて、応援してくれたみんなの顔を見たときに、初めて優勝したんだと実感がわき、うれしく思いました。

僕は、この大会を通じて仲間の大切さを学びました。そして、お

世話になったすべての人たちに感謝します。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

副将・中村結乃選手は県外進学のため、時間の都合上掲載できませんでした。

【全国大会を終えて】

大将・北井涉之輔

僕は、石川県で行われた全国スポーツ少年団剣道交流大会で、石川県Aチームの大将として出場させていただきました。

石川犬鷲剣道部は、県内の選手たちの中から選ばれた十六名が入部してはまりました。この仲間たちと毎週たくさん稽古をして、合宿もしました。また、県内外の錬成会や大会にも一緒に参加して、お互いの強い絆もできました。そして全国大会で上位入賞ができるようにと、みんなで稽古を積み重ねていきました。

全国大会の当日は、地元開催ということもあって、たくさんの人たちが応援に来てくれました。とてもうれしかったし、励まされま

した。そのおかげで予選を勝ち上がる事ができたのだと思います。そしてその夜、メンバーと「絶対優勝しよう」と決意を語り合いました。

決勝トーナメントの日。僕たちは、全国メンバーには入れなかった石川犬鷲剣道部の仲間たちの思い、指導してくださった監督やコーチの先生方の心、そして応援してくれている友達や保護者の方々の願いに後押しされ、決勝まで進むことができました。

決勝戦の相手は岡山県でした。ここまできたら絶対優勝する、負けたくないと思いましたが、試合前に監督から「楽しくやってこい」と言われ、その言葉を聞いた瞬間、緊張がほぐれました。試合ではみんな本当に頑張りました。僕にまわってきたときは、二本負けしなければ勝ちという有利な状況でしたが、僕は勝つことだけを考えて大将戦にのぞきました。

そして僕たち石川県Aチームは優勝しました。優勝できたのは一緒に稽古してきた仲間たち、先生方がいたからだと思います。優勝できて本当にうれしかったです。最後に、一緒に稽古してきた仲

間たち、指導してくださった先生方、応援してくれたみんな、石川県剣道連盟の先生方、本当にありがとうございました。

【保護者としての思い】

石川犬鷲剣道部の保護者

この一年、私たちは保護者として子どもたちをバックアップしつつ、時には一緒に汗を流しながら、その努力を間近で見してきました。最初はお互いに遠慮がちだった子どもたちが、次第にお互いを仲間として認め、支え合い、励まし合うようになっていく様子は、見ていてうらやましいくらいでした。

自分の子どもはもちろんですが、みんなが切磋琢磨しながら、次第に強く、成長していくのはつきりと見えて、石川犬鷲剣道部に参加させていただいたことを本当にうれしく思い、感謝しております。

また、監督・コーチの先生方は、石川犬鷲剣道部の十六人を分け隔てなく指導してくださいました。そのおかげで、全国大会メンバ

五名だけでなく、最後まで全員で全国大会に臨めたと思います。ですから、石川犬鷲剣道部が全国大会優勝を果たした瞬間、思わず涙がこぼれてしまいました。単にうれしかっただけではありません。これは石川犬鷲剣道部全員の努力と思いが実結んだ瞬間。その素晴らしい胸が熱くなり、感動したのです。

この優勝は選手たちの努力だけでなく、監督・コーチの先生方の素晴らしい指導、そして協力・応援してくださったすべてのの方々のおかげだと感謝しております。本当にありがとうございます。



中学校の授業に

「剣道」を

副会長 中村 康徳

石川県下の剣道人口は多く、小学生から高齢者まで盛んに行われ、その活動の様子は県剣連のHPや行事報告に紹介されている。大変嬉しい限りであります。

県剣連も目標に明示し、その普及・発展に取り組んでいます。

しかしながら、中学校の正課体育、いわゆる保健体育の授業の中で、剣道は大変厳しい状況です。

武道が必修化されている状況で、石川県の平成25年度の実施状況調査では、約20%となっており、柔道の約80%と比較すると極端に低く、相撲やなぎなたは実施されていません。全国的には下位にランクされます。これは、従前から

県下の流れでしょうか。剣道愛好者の中にも同感と感じる方が多いのではないかと思います。

また、もう一つの要因として、中学校での保健体育教諭の中では、柔道の有段者は多いのですが、剣道の有段者は極端に少ない状況で

す。さらにまた、費用・施設等の理由で、授業はしなくても、部活動に取り組めばよしと安易に考えられている人達もいるのではないのでしょうか。

全日本剣道連盟は、平成25・26年度にわたり、文部科学省の委託を受け、授業協力者の養成事業に乗り出しました。

各都道府県の実態調査と共に、代表者を集めての趣旨説明、その後、各都道府県剣連より推薦された学校と教育委員会、学校と授業

協力者を結ぶコーディネート

の授業協力を養成講習会に

取り組みました。授業協力者養成講習会

講師は各都道府県で授業協力者の講師となり、講習会を開催しました。授業協力者は、地域内の教育委員会より要請があれば、授業協力者として、保健体育の先生のT2として授業に参加し、剣道を教えることとなります。

石川県剣道連盟は、平成25年度は2月に講習会を実施し、約30名の地域での先生方の参加を得て実施しました。

平成26年度は説明会が終了し、

7月4～6日にかけて日本武道館研修センター(勝浦市)で講習会が予定されており、本県より2名の先生が参加されます。その伝達講習会を秋に開催する予定で計画を進めています。



写真I しなる竹刀

講習会は、剣道の安全性を最優先に考えた指導方針のもとで、保健体育の先生方が授業協力者の協力を得ながら授業展開する手立てについて例をあげながら展開していく予定です。



写真II 特別支援を要する生徒

一般の生徒に剣道を教える授業は、好きで集まっ

ている部活動と違い、生徒の関心・意欲・態度を育み、学びの広まりを意図していかないと「剣道をやって良かった。」「また、やり

たい」と評価される内容になりません。と同時に、剣道の持つ伝統・文化もきちんとおさえなければなりません。そのための資料として、全剣連は昨年度の講習会で配布したテキストの修正版や剣道授業の展開・DVDを再配布する準備をしています。



写真III 礼の日常化

25年度以上の参加をお願いしなければなりません。

最後に、昨年度、実際にどれ位の授業協力者が学校に入っているかの数値は手元にはありませんが、あってもごくわずかだと思います。市町の教育委員会が剣道の安全性、指導者の資質の高さを再認識して剣道を採用して欲しいものです。特に、言葉として「剣道のまち」を標榜する自治体が県内にはいくつみられます。先駆者になって欲しいものです。

剣道部訪問 第2回

「金沢桜丘高校剣道部」

県内の中・高の剣道部を訪問し、強豪校の練習方法などを取材し、他の学校・指導者の参考に資することを願って、剣道部訪問を企画いたしました。今回は第2回として、先般の石川県高校総体で男子団体ベスト8、女子団体優勝の金沢桜丘高校剣道部を訪問いたしました。



一 剣道部概要

現在の部員は、1・2年生で男子10名、女子9名の計19名です。こころ、二年は部員数が少ないですが、多くの実績と歴史を持つ剣道部ですから、石川県全域から入部希望者があり、毎年各学年10名程度が入部してきます。

二 指導方針

剣道部を指導するのは、同校剣道部の卒業生でもある小田哲生(47)先生です。指導方針についてお伺いしました。



「金沢桜丘高校は、校訓「文武両道」校是「質実剛健」を実践し、学校生活や部活動を通して人間性や社会性を養うことを第一の目標にしている。また、剣道部は金沢桜丘高校の前身の「金沢第三中学校」時から「存養堂」として道場がおかれ、その「存養」の意味である「善性を養い育てる」の精神で学業と剣道の両面から指導している。」ということでした。

三 部の活動時間

平日は平均2時間程度。休みの日などは練習試合や遠征に出ることもある。休みは週に1回。学校の課題などが多く、練習後は早く切り替えて家庭学習できるように取り組んでいます。

四 部員への意識付け

目標を持って自主的に取り組み、練習のための練習にならないようにしている。

五 練習内容

基本的に内容は決まっていない。その時に必要とする内容を実施している。ここで示すのは一例である。



- (1) トレーニング：①筋トレ ②重素振り ③タイヤ打ち ④ポール打ち
- *体幹を中心に竹刀などを使ってのトレーニング。
- (2) 切り返し：①左片手で大きく打つ ②実際に打つ ③踏み込んで打つ(2セット)
- *切り返しの必要性を考えて打つ。
- (3) 基本打ち：①しかけ技 ②応じ技 ③引き技 ④技の練習(各3本×5セット)
- *有効打突を基準に打つ。
- (4) 打ち込み：①払い技 ②体当たりからの技 ③さばきの技 ④防衛に対しての技(2セット)
- *実践で自分が攻め込む事を想定する。
- (5) 1分試合：男女交互で6回*1分以内で1本を取りに行く練習。
- (6) 自由稽古：3分×6回*気を切らない稽古を心がける。

六 男女主将談

(1) 男子 西川宏見主将
剣道部男子は↓
みんな明るく仲が良い。お互いに考えて練習に取り組んでいる。今後の目標は↓
全国選抜大会と全国総体への出場。目標を定めた練習をしていく。どんなチームに↓
周囲に愛され、応援されるチーム。学校生活を中心に何事も全力で取り組む。

(2) 女子 西村綾花主将
剣道部女子は↓
全員が文武両道を目標に、日々の厳しい練習に励んでいる。今後の目標は↓
今年も全国総体に出場。先輩達を目標に先輩達を超える結果を出す。

どんなチームに↓
目標が達成できるように、切磋琢磨し最高のチームをつくる。

七 小田先生談

(1) 魅力：剣道は心身を鍛えるには最高であり、年齢に応じて自分を向上させることができる。
(2) 目標：人にはそれぞれの考えや求める剣道がある。その剣道を追求する中で培ったものを今後の自分の生き方や自分を取り巻く社会、家庭で役立てる。

「東日本中央講習会を受講して」

副会長 田上 雅治



標記講習

会が、四月

四日(土)・

五日(日)の二

日間、東京ス

ポーツ文化館で開催され、南

信

副会長と受講してきました。

『開講式』では、松永政美全剣

連副会長の挨拶がありました。

『剣道形講習』の冒頭に加藤浩

二範士より、三月岡山県で行われ

た八段審査の寸評がありました。

内容は、

- ・「覚悟が足りない」
- ・「二分間で、どう体現できるか」
- ・「自分の生き方をどう覚悟するか」

・「まだ足りない、まだ足りないで稽古を積む」

「覚悟が足りない」という言葉が心に響きました。

『剣道形講習』では、機を見て打つ→切る。打つ前の覚悟が必要であること。特に小太刀の形での、入り身にならんとするとこ

ろ、刀法について丁寧にご指導いただきました。

梯 正治範士による「審判法の講習」では、審判規則、同細則の

内容を知っていることと、できることとは違うので、審判の数をかけて能力を高める為の努力を怠らないこと。審判に際しては、試合者の錬度、玄妙な技の見極め、不当な行為に対しては厳しく対処することが、試合の活性化につながると説明された。

『審判実技』では、日本体育大学二年生による模範試合で、三段くらいの錬度を意識した有効打突の見極めをご指導いただきました。

遠藤勝雄範士による『剣道基本技稽古法』の指導においては、特に竹刀剣道に系統的に発展させていく指導法を、模範を示しながら丁寧に指導いただきました。

『稽古会』では、講師の先生方、参加者による回り稽古で、お相手していただいた方々に鍛えていただき、心地よい汗を流しました。

すばらしい講師による講習会を、緊張感を持って受講し、充実感を感じながら帰途に着きました。



「第52回剣道中堅剣士講習会を受講して」

石川県立羽咋高等学校 田畑 武志



平成26年

5月21日

5日までの

5日間奈良

市中央武道

館で行われた中堅剣士講習会に石

川県剣道連盟の代表として参加さ

せて頂きました。

過去にこの講習を終了された先

輩方から、この講習を経験するこ

とが、自分自身の剣道を高め、向

上させていく過程において大変重

要なものであるというお話しを聞

いておりました。私も機会があれば是非参加したと考えておりましたので、今回このように参加が現実のものとなり、決定通知を頂いた時には嬉しい気持ちと強い決意で胸が熱くなりました。

さて、講習会参加にあたり内容が大変厳しくハードなものであると聞いておりましたので、準備として毎朝3kmのランニングと素振り八百本を日課とし二ヶ月前から準備をして講習会に臨みました。

この講習会には全国から選ばれた63名が参加しました。全日本剣道連盟常任理事・剣道範士八段京都府の高橋俊昭先生が中心とな

り、その他12名の範士八段の先生方からご指導を頂きました。

5日間の講習は、朝稽古、午前稽古、午後稽古、道場の雑巾がけ、先生のお世話、食事当番と連日考

える時を忘れ剣道に没頭する内容でした。このような経験は大学生以来であり、心は気迫と好奇心で満ちあふれておりましたが、46才を超えた私の体は日を重ねるにつれ悲鳴をあげはめました。しかし、石川県剣道連盟の代表であるという使命感と自信でなんとか5日間の講習を乗り切り、無事修了証を手にすることが出来ました。

この講習会で学んだ技術的な事柄は沢山ありましたが、講習を終えて最も脳裏を過ぎったことは「気迫無くして剣道無し」という大学時代の恩師から送られた言葉でした。

今後は、今回体験させて頂きました事柄を、少しでも多くの方々に伝えるとともに、いろいろな意味で高レベルのこの講習に推薦して頂きました石川県剣道連盟発展のために、微力ながら尽力していきたいと考えております。

合格体験記

「剣道七段合格」



小川 美貴男

私は長く昇段審査を受けていながら、指導しただけです。幾度かの審査では、良い評価の時もありましたが、もう一本とろうとして機会を捉えず無理な打突をしたり、無駄打ちをしたりして何度も跳ね返されました。今回の審査では、機会を大切に、思い切りの良い打突を心掛け、打ち切る事を大事にし臨みました。

できた子供たちが真剣に上を目指して頑張っている姿を見て、自分も心機一転、精神・身体を鍛え直し挑戦しようと思いいちました。稽古は、仕事の都合もあり、毎週月曜日の辰口武道館の稽古と、土曜日の県武の稽古に出来るだけ通いました。

辰口武道館での稽古は、礼法、基本を大切に、山下先生の指導で、剣道形も事細かく指導していただきました。それにつけても、今までの稽古がいかに漫然とした、そして視野の狭いものであったかを思い知らされました。

稽古では、右手に余分な力が入った打突など、悪い癖は多く、その都度、指摘され修正しながら稽古を積み重ねました。

山下先生の厳しくも思いやりのある指導のお陰で悪い癖も少しずつ良くなりました。しかし、高段者に必要な相手を

引き出して打つ、打突の機会を捉えて打つ事が十分に出来ず、思い悩み苦しみました。幾度かの審査では、良い評価の時もありましたが、もう一本とろうとして機会を捉えず無理な打突をしたり、無駄打ちをしたりして何度も跳ね返されました。今回の審査では、機会を大切に、思い切りの良い打突を心掛け、打ち切る事を大事にし臨みました。審査では、不思議と心が落ち着き、体も動き、今まで指導を受けた打突の機会を捉えて打つ、相手を引き出して打つという事が自然体で出来たように思います。今回七段に合格出来ましたもの指導していただいた先生方はじめ、多くの剣友の皆様のお陰と深く感謝しています。昇段に向けての礼法、基本練習は、少年の指導にも、大変役立ちました。これから健康に気を付け、自身の剣技を磨くとともに、正しい剣道指導を心掛け、少年育成に努力していきたいと思えます。

「剣道六段に合格して」



小松市立御幸中学校 教諭 上原 智光

このたび、愛知県で開催された「剣道六段審査会」において合格することができました。これも、岩脇司先生、律子先生をはじめ小松市剣道協会の諸先生方や稽古をつけていただいている多くの先生方のご指導とご支援の賜物と、心より深く感謝しております。

私は小学校2年生から剣道をはじめ、今まで多くの試合に出させていだいてきました。その中で「勝ちにこだわらぬ剣道」を続けてきたこともあり、悪い癖がたくさん身についております。そこを先生方に「姿勢が悪い」、「構えるときに右肩がはいっている」、「打ち切っていない」、「打ったあとにジャンプしている」などたくさん注意していただきました。合格するまでには相当な時間がかかりましたが、自分の剣道の一つ一つ見つめ直す機会になり、今後自分が剣道を続けていく上で、大変貴重な時間だったと思っております。落ちていたときには、自信を失い、自分の剣道を見失い、苦しく嫌になることもありましたが、小松の稽古や学校剣道連盟の研修会などに

行かずに、多くの先生方から激励していただいたおかげもあり、続けてこられたと思っております。非常にありがとうございました。審査には岩脇司先生、律子先生も応援にきていただき、また、大学の同期である中井先生も一緒に受けたです。立ち会いのときには「目の前が真っ白になるくらい大きな声を出すこと」、「特に初立ちを焦らずに打ち切ること」、「欲を出さないこと」の三点を頭に入れてやりました。1回目ではあまり手応えはありませんでしたが、観覧席で岩脇先生がうなずいているのを見て自信がもてました。2回目には今までの中で最も手応えを感じる事ができました。合格発表のときに自分の番号を見てとても感動しましたが、それ以上に、今まで大学時代から切磋琢磨しながら続けてきた中井先生と一緒に合格できたことは言葉には表現できない喜びがありました。

これからは、今まで以上に稽古に励み、七段という目標に向けて精進していきたくと思っております。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願ひ致します。

【全国大会等の記録】 (1~6月)

◎第23回北信越高校剣道新人大会

2月1・2日、庄川体育センター

◇男子 ▼準決勝

新潟一①(代表戦) 1羽昨

星 稜③—1新潟商

▼決勝

星 稜②—1新潟一

◇女子 ▼準決勝

金 沢②—1桜 丘

新潟商③—0星 稜

▼決勝

新潟商①—0金 沢

◎第23回全国高校選抜剣道大会

3月27・28日、春日井市総合体育館

◇男子 ▼1次リーグM組

東海四③—1星稜

草津東①—0星稜(予選敗退)

◇女子 ▼1次リーグA組

金 沢②—0盛岡北

和歌山工②—0金沢(予選敗退)

◎第36回全国スポーツ少年団

剣道交流大会

3月29・30日、いしかわ総合SC

◇小学生団体 石川A 優勝

▼準々決勝

石川A③—1大阪

▼準決勝

石川A⑤—0奈良

▼決勝

石川A②—1岡山

○河邊メモー 宮ノ内

東 一メモ藤 田○

松本引き分け 岩本

○中村メモー 久戸瀬

北井引き分け 重松

◇中学生個人

▼男子 四郎丸将己(ベスト16)

▼女子 中 生吹(ベスト16)

◎第62回都道府県対抗剣道優勝大会

4月29日、大阪市中央体育館

▼一回戦

石川 ③—2 栃木

▼二回戦

石川 0—⑥ 大分

◎第24回若獅子旗争奪中学選抜

剣道白山大会

5月10・11日、

松任総合運動公園体育館

▼男子団体 津幡中(ベスト8)

▼男子個人 2位 四郎丸将己(森本)

3位 中村 佑馬(津幡)

ベスト8 櫻吉 威風(城南)

▼女子団体 羽昨中(ベスト8)

▼女子個人

ベスト8 東 咲貴子(宇ノ気)

◎県高校総体剣道競技

6月5日~7日、羽昨体育館

◇男子団体 ▼決勝

羽 昨②(代表戦) 2星 稜

◇女子団体 ▼決勝

桜 丘①(代表戦) 1星 稜

◇男子個人優勝 高西 祥(羽昨)

2位 下池 真平(羽昨)

◇女子個人優勝 濱田 詩織(羽昨)

2位 北江 叶実(羽昨)

◎第52回北信越高校剣道大会

6月20~22日、長野市真鳥アリーナ

◇男子団体 ▼準決勝

富山工②(本数勝) 2星 稜

◇女子団体 ▼準決勝

桜 丘 ②—0 羽 昨

▼決勝

新潟商 ③—1 桜 丘

◇男子個人

▼決勝 皆川メモー下池(羽昨)

中央審査会合格者

◇剣道 ▼七段

岡本 泰 村山 次哉

小村 龍三 泉 浩幸

小川美貴男 井上 敬三

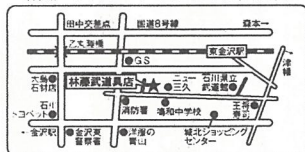
▼六段

中井 秀人 上原 智光

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
E-mail: budou@chive.ocn.ne.jp

【営業品目】
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



武道具の
ハシモト

KIRI BRAND

金沢市上荒屋7丁目67 TEL249-8233
〒921-8065 FAX249-9139